

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



LEAD THE WAY

率先しよう

2006~2007年度 国際ロータリーのテーマ



2006-2007 R.I.D 2650



Mutual Trust 心のきづな
奉仕の感動を分かち合おう。

2006.9.1

Vol. 3





写真は、平井ガバナーと特殊非営利活動法人 京都インターナショナルスクールのみなさん。

新世代との絆

私は戦中派で、生まれた当時の事は分かりませんが、
子どもは国の宝として結構大切にされていたように思います。
戦後も現在のいわゆる団塊の世代の出生と共に
国の復興は、まさに勢いのあった時代でありましたが、
やはり子どもは地域の宝として
おとなしい子どもがギキ大将も、みんなそれなりに活動の領域があり、
同じ地域の大人たちと接しながら、いや時には激しく怒られたりもしながら、
たくましく成長してきたように思います。

いま孫に囲まれ、その言葉やしぐさに癒される日々を経験しております。
やっぱり子どもは宝ですね。
その子どもにまつわる目を覆いたくなる世相。
放置や虐待、拳げ句の果てに殺人……。
このような風潮を日常化して、決して21世紀の歴史の汚点にしてはなりません。

私たちロータリアンにおける新世代育成は、
青少年と共に奉仕を実践し、
お互いが感動を分かち合うことに始まると思います。
私は特に海外の経験や国際交流、
そしてロータリアンも一緒に参加しての奉仕活動から
知らず知らず身につく「教育」に期待しております。
共に活動するからこそ絆が生まれ、
ロータリーの親衛隊になり、未来のロータリアンの卵になります。
そして、彼等と一緒に働く私たちの姿を見て育ちます。

私たちの行動はどのように彼等の目に映っているのでしょうか。
大切な宝を、自らの活動を省みながら大切に育てましょう。

国際ロータリー第2650地区

ガバナー 平井義久

絆



Mutual Trust

奉仕の感動を分かち合おう。

新世代育成

「新世代のための月間に因んで」

新世代に関する記述は、手続き要覧第8章に活動内容が規定されておりますが、この委員会は、社会奉仕委員会の小分野として青少年に対する奉仕Service to Youthが設けられており、当時は「国際ロータリー連合会」に青少年活動委員会Boys Work Committeeが1916年設置されたのですが、1927年にロータリークラブの管理組織の機構改革によって四大奉仕に分割され社会奉仕の中の唯一の特定分野として青少年活動部門が設けられ現在に至っております。1940年にRI理事会は「青少年への奉仕の目標」を定め、この目標は数回改正をされておりますが、今なお現在でも有効なものです。

また、青少年の健全な育成に及ぼす大人の影響は大きいものがあり、1940年RIの理事会では「青少年の模範としてロータリアン自らがその行動を自戒しなければならない」という意味から「各ロータリアンは青少年の模範」Every Rotarian an Example to Youthの標語を発表いたしました。

1995年RI会長ハーバード・ブラウンは、未来を担う青少年に恵まれた環境を与えるために、健全な家庭の大切さを強調いたしました。また、1996年RI会長ルイス・ジアイは、「過去は我々の祖先が作ったもの、現在は両親が作ったもの、未来は新世代が作るもの」と述べられ青少年対策を再重要課題と位置づけ、次代を担う新世代が何を望んでいるかを知るために、全世界のロータリークラブにおいて「新世代会議」を開催することを要請いたしました。10年前に「青少年への奉仕」は「新世代のためのロータリープログラム」と変わり各ロータリアンの責務を明言いたしております。そして地区とクラブでは基本的ニーズを支援するプロジェクトに着手するに当たっては、新世代のためのプログラムに対する意識を明確にすることが必要です。

ロータリアンは新世代に対して、道徳や倫理観をしっかりと持ってより良い社会を築くために貢献できる人材を育て、そして善良な市民として成長していく課程において地域の指導者と対話し、自分たちのこれからの夢や抱負を明確にして、自分たちと居住地域の問題解決策の場を提供していかねばなりません。

「RYLA」開催のための趣旨

Rotary Youth Leadership Awards とはオーストラリアで始められた青少年を対象にしたロータリープログラムのひとつで、日本では「ロータリー青少年指導者養成プログラム」と訳され、1976年より開催されております。

RYLAの目的とするところは、「若い人々の指導者及び善良な市民としての資質を伸ばす」とされて

「新世代のための月間」

地区ローターアクト委員長の大役を仰せつかって3年目を迎えることになりました。ロータリーの皆様、今年度も引き続き宜しくお願いいたします。

現在のローターアクトの現状は、2006年6月末現在会員数477名37クラブ、年頭の415名より62名の増強を図ることが出来ましたが、今年度の年頭会員数は、卒業生64名と中途退会者21名で85名の減少となり、益々厳しい現状となります。今年度も気を引き締め更なる会員増強に力を注いでいきたいと考えております。会員の減少はローターアクト活動の低下に結びつきます。この現状を改善していくためにはさまざまな問題を解決していかねばなりません。これにはまず各ロータリークラブの皆様方にアクター達との合同例会の実施や、理事会、例会への参加、ロータリー例会のプログラムにアクターの参加など自クラブのアクター達との関わりを深めていただければと思います。そしてアクターの例会にはロータリアンの豊富な経験と職業を通じての知識と情報を教えていただければ





Mutual Trust
奉仕の感動を分かち合おう。

新世代・RYLA委員長 **吉川 裕文** (京都洛西RC)

新世代のための会議

ロータリークラブは地域社会レベルで新世代が地域の指導者と対話し、希望や夢そして抱負を表明し、自分たちの住んでいる地域の問題まで討論できる場を提供しなければならない。新世代のための会議の目的は、地元・地域レベルで地元・地域の指導者と新世代の若者とが対話の場を作ることである。

1. 若い人々が関心ごとを発表し、未来の夢を明確にして目標達成に必要な支援を見極める機会を提供すること。
2. 地域社会の指導者として、地域社会のニーズを検討するときに若い人々を奨励すること。
3. すばらしい地域社会を創造するのは、地元・地域のみんなの責任であることを自覚させること。

以上の視点を念頭に置いて各クラブの新世代委員長の皆様には「会議」を開催していただくことをお願いいたします。

おり、特に「地域社会の市民であることを認識し、さらに青少年による青少年への力強い指導を奨励する」ことを目標に世界各地で毎年開催されております。

第2650地区でも1980年からセミナー形式と屋外活動等を取り入れて開催されています。

選ばれてRYLAに参加するのは、地域社会の中にあって将来その地域の指導者となる資質を持ち社会の発展に貢献しようとする思考を持った人たちです。RYLAはこうした人類社会の次代を担

ローターアクト委員長 **大島 國裕** (奈良RC)

ばと思います。そして今「新世代のための月間」というこの機会に私達ロータリアンが何の目的で新世代のプログラムを集中的に取り組みインターアクト・ローターアクトクラブを提唱しているのかをもう一度考えていただきたいと思います。

2006～2007年度は、京都西ローターアクトクラブの、山崎功昭君が第2650地区ローターアクト代表として、地区テーマ「笑顔をつなごう」の下、地区ローターアクト活動を統率していきます。これは、人は人に支えられていることに感謝し、その気持ちを笑顔で表現することだと思えます。そして、笑顔効果がローターアクト活動の活性剤となり、共同して奉仕活動を実践する

奈良地区RYLA 開催要項

日時：2006年9月30日(土) 9:00受付開始
場所：奈良市音声館(おんじょうかん)
奈良市鳴川町32-1
TEL 0742-27-7700

っていく若い人たちに身近なテーマを題材に仲間とともに学び、考えそして問題解決への道を探求する試練の場を提供するもので、さらにロータリーの理念や奉仕の理想をも体感できるような設営にも取り組んでまいりたいと思います。

RYLAの目標

- * ロータリーが青少年を尊重し、かつ青少年に関心を抱いていることをさらに明らかにすること
- * 選考した青少年及び素質のある人に実施訓練を体感させ責任ある有能なボランティア青少年指導者となる方法を身につけるよう激励する

RYLAの取り組み

- * 指導力の基礎養成
- * 建設的指導力の倫理模範
- * 効果的指導力における伝達力の重要性
- * 問題解決と紛争処理
- * ロータリー情報の伝達
- * 地域社会の市民であり世界の市民であることの認識
地元・地域に関連する諸問題との取り組み

特に本年度は、委員会名に「RYLA」がはいました。いままでの地区合同RYLAという形式にこだわらず、地域ごとのRYLA(IM単位)の開催を考えております。

完成度の高い今までのRYLAのように初年度開催できるかどうか不安なところもありますが、各地域の新世代委員会のお力をお借りいたしまして出来る限りの努力をしようと思えます。

ことが、素晴らしいクラブ造りにつながり、今年度国際ロータリー2650地区ガバナー 平井義久様のテーマ『絆』、アクト同士の絆、地域の方々との絆、家族との絆につながるものだと思います。

我々ロータリーはロータリー家族でもあり、次世代を担うアクト達に自己修練を養う機会と場所の提供をしていく必要があります。そしてアクト達を含む若者達にしっかりと進むべき道を伝えて行くのではありませんか。

地区ローターアクト委員会では、地区新世代・ライラ委員会、インターアクト委員会、国際青少年交換委員会、米山奨学委員会、会員増強委員会と情報交換をしながら活動していきたいと考えておりますので、ご支援のほど宜しくお願いいたします。



Mutual Trust

奉仕の感動を分かち合おう。

新世代育成



頑張るインターアクト

地区内16のインターアクトクラブが学内に於いて、また地域社会の老人ホーム等多くの施設で喜々として活発な奉仕活動を展開しており、大変喜ばれております。

本年度のインターアクト海外研修は本年度ウィリアム・B・ボイドRI会長のテーマ「LEAD THE WAY―率先しよう」。平井義久RI第2650地区ガバナーのテーマ「絆 奉仕の感動を分かち合おう」(Mutual Trust)とされ、その「絆のもとで、大きな感動を伴う奉仕を行ってまいります」と明言されました。今回の「インターアクト海外研修」はRI会長、地区ガバナーが提唱されましたテーマのもと、インターアクトの奉仕活動を行ってまいります。

私達ロータリアン顧問の先生とインターアクターが世界の困窮を訴えている人々に対して少しでも力になれるよう、役に立つことが出来るように、その想いを主体にインターアクト海外奉仕活動を実践したいと考えました。RI会長は、「1. 識字率の向上 2. 水保全 3. 保健、飢餓追放 4. ロータリー家族」を2006-2007年度の目標として強く提示されました。さらに「私達は地域社会やクラブで常に行われているやり方を踏襲することに満足しません。私達は現状に決して満足していません。又、私達は誰か他の人がそれを解決するだろうという風に考えません。私達は先頭に立って行動しなければならない人間です。」一つ一つの善行を重ねながら着実に世界を変えていくロータリアンの力に対する信念、実に力強い言葉です。寛容と思いやりと誠実

新世代育成を考えよう

今月は新世代のための月間です。月信7月号にも書きましたが、今大事な事は、新世代、特に中学生以下の子供達を対象とする育成活動が最も重要であります。それには、犯罪の若年化、不登校等問題は山積しております。そこで私達ロータリーでは、徳育の重要性を痛感し、特に幼児の教育を考えなければならないと考えております。育成活動に貢献された方々を表彰する事によって、その目的達成の一助にしたいと考えております。今年度の具体的活動は、中学生以下を対象とする育成活動について

- 1) 貢献顕著な個人団体を表彰する
- 2) 優れた新世代(主に低年齢の子供)の育成活動計画に奨励金を贈る
- 3) 年一回シンポジウムまたは講演会を行う

以上が当委員会の事業です。

1)、2) について、地区大会は今年度は3月31日、4月1日に

インターアクト委員長 玉井 公詞 (京都伏見RC)

さを実践し、自らが手本となってロータリーの道を率先するよう
に、と力説されたのであります。

私達が提唱しておりますインターアクトクラブに対しまして
も、RI会長の理念である「識字率、水保全、保健、飢餓追放」に
ついての奉仕活動の実践と勉強とを様々な研修をとおして深めて
ゆく所存です。

今回タイ国内における海外研修におきましても、現地生徒との
意見交換ホームステイを通しての住民との交流、困窮している家
庭への支援（奨学金）等を行います。アジア地域におきましては、



いろいろな国の子供達が困窮を訴えております。劣悪な環境衛生、
栄養失調、貧困、暴力、薬物乱用、アルコールの過飲等、日本で
は考えられないような状況の下、彼等は生活をしております。
2000年度より私達はタイ国にて活発な奉仕活動を行い、多くの
成果をあげてきました。そして今年度は顧問の先生方と十二分に
議論をし、更に一歩踏み込んだ奉仕活動を実施致します。

東北タイ地方におきましては、

1. 奨学基金にて援助をしている学生を訪問し、学校や生活環境
の視察、研修
2. 学校での体験授業を通して、現地の教育実情の把握と日本の
教育実情を説明し、その違いを把握する。
3. 現地高校を訪問し、日本とタイの学生の意見交換の実施
4. 現地家庭にホームステイをして、現地の人々との交流を図る。
5. 前年度募金活動にて集まった浄財にて「困窮する小中学生」
への支援

上記の内容にてインターアクト海外研修を実施し現地の人々と
「心の絆」をとおして大きな感動を分かちあいたいと願っておりま
す。参加したインターアクター全員が一回りも二回りも大きく成
長して元気に帰国してくれることを信じ、楽しみにしております。
去る7月16日（日）京都商工会議所におきまして大変ご多忙の
中、平井ガバナー、林地区新世代担当幹事のご出席のもと海外研
修の事前説明会と結団式を行うことができました。深く感謝申し
上げております。帰国報告会は8月27日（日）に予定しており
ます。

新世代育成基金特別委員長 増田 善宏 (福井RC)

行われますので、ここで授与式を行う予定です。各クラブからの
推薦受付期限は12月末日とし、その審査は1月中に行いたいと
考えております。

又、3)の講演会については、11月11日（土）に識字率向上
支援グループアジア担当エリアコーディネーター・藤川享胤パス
トガバナー（鶴岡ロータリークラブ）にお願いして、京都商工会
議所にて午後1時～4時迄行う予定です。藤川様は全てに通じて
おられ、特に新世代においても造詣の深い方です。又各クラブへ
ご案内させていただきますので会長幹事さん、新世代の委員長さん
はご出席いただき、又ご希望の方々のご出席も歓迎致します。
今からご予定をお願い申し上げます。

当委員会は2004年～2005年に神谷保男ガバナーのご提唱に
より設立されました。その前年の大阪国際大会の返戻金1500万
円を原資として、毎年地区会員の皆様からお一人1000円の拠出
をお願いしております。毎年の活動費は500万円を超えないのが

基準です。

又これは2005年から2014年迄の10年間継続する私共
2650地区の特別委員会です。

どうか会員の皆様方のご協力をお願い申し上げます。



富士登山エクスカーション

毎年、2650地区における新しいロータリー年度最初の青少年プログラムは、受入学生の富士登山エクスカーションから始まります。今年も7月4日から6日にかけて、恒例の富士登山が実施されました。今年は受入学生7名とローテックス（元派遣学生）1名そして地区委員5名の計13名という参加人数でした。4日の朝8時半の京都駅バスターミナルには、当日第1回目の公式訪問にもかかわらず、平井ガバナー、大藤副幹事長と堀元委員長が見送りにこられました。そして平井ガバナーからもうすぐ帰国する受入学生に、

「日本の文化や思い出を母国でたくさんの人に教えてください。そして将来は皆さんロータリアンになって活躍してください。」という激励の言葉をかけてくださいました。その後一路富士へと出発しました。途中、米原で学生と地区委員が合流し全員揃い、バスは名神、東名高速道路を順調に走り、午後4時すぎには富士山の五合目に到着しました。あいにく曇っていて山頂は見えませんが記念写真を撮った後、毎年お世話になっているガイドさんに先導してもらい登山を開始しました。7合目の山小屋まで歩きましたが学生は元気なのですが、やはり地区委員は息があがって酸素のお世話になりました。夕食後、仮眠を取るわけですが毎年、学生は騒いで朝まで寝ないのが恒例になっていますが、今年は（優秀な学生ばかりで？）早く眠りに就きました。



そして早朝4時に起床し4時半には感動のご来光を見ることができ皆「ウォー、スゴクキレイ」と叫び盛んにカメラのシャッターを切っていました。その後5時にいざ山頂を目指して登山を再開しました。が、あっという間に雲行きが悪くなり風が吹き暴風雨になりました。それでも本八合（3,450メートル）までたどり着きました。しかしポンチョは着いても体は雨でずぶ濡れで気温は5度という寒さでついに地区委員全員と学生1名が無念の下山と相成りました。しかしその他の学生は「どうしても山頂まで行く」と言いその1時間後、見事感動の富士山登頂を果たしました。

そして下山の後、冷え切った体を河口湖のホテルの温泉で温めた後、最後の夜を覚えた日本の歌を元気いっぱい歌って盛り上げたカラオケ大会になりました。彼らは1人を除いてこの富士登山が終わると帰国します。皆と集う最後の機会を十分堪能した様子でした。最終日は山梨で桃狩りをして舌鼓を打った後、長野県岡谷市にある御諏訪太鼓と和太鼓を、長野オリンピックの開会式で披露された御諏訪太鼓宗家会長、小口大八氏が自ら学生に指導してくださいました。さすが若者、覚えが早く初体験なのに大汗をかき上手に打っていました。これには大変感激した様子でした。楽しかった富士登山もバスが京都に近づくに連れて終わりに近くなります。京都駅では皆またの再会を誓い合い別れを惜しみながらそれぞれのホスト宅に帰って行きました。「皆、元気でな！また会おう！！」



青少年交換委員長 楠 滋夫 (亀岡中央RC)



あ
し
ん
ぶ
ー!

中学生に美しいしらべを… (檀原ロータリークラブ)

創立50周年記念実行委員長 密門 光範 (檀原RC)



檀原ロータリークラブは、創立50周年を迎えて中学生の皆さんに、本物の音楽を、生の音楽を、そして癒しの音楽を聴いてもらい、その調べに耳をかたむけ、心をやさしく、あたたかなごんで欲しいとの願いのもと、七月一日奈良県檀原文化会館大ホールに於いて、午後二時～午後四時まで奈良県下の中学生1300名を招待して満席とし、檀原ロータリークラブ会員は全員立席して、音楽鑑賞会を開催した。

出演は現田茂夫さん指揮の大阪フィルハーモニー交響楽団(80名のフルメンバー)である。

中学生達は、「生まれて初めて聞いて感動した。」「終わっても胸がドキドキしている。」「すばらしい音楽会だった。」等と喜びの満ち足りた笑顔で家路についた。

中学生のお客様を笑顔で迎え、笑顔で送り出した檀原ロータリークラブの会員一同85名は音楽会の成功を目のあたりにして喜びと笑顔。

大阪フィルの80名も指揮者の現田茂夫さんも、のりにのって、アンコール、アンコールの連続で笑顔渦巻く音楽会であった。



高校生に夢と希望を (福井南ロータリークラブ)

職業奉仕委員長 高木 淳一 (福井南RC)

高卒学生の就職活動の始まる前に面接マナーの体験実施を今年は、様式を実際的な会場構成で実施しました。毎年職業奉仕委員会が主となり、本気ムードの試験官(会員)と福井工業大学付属福井高等学校と事前打合せ通りに、臨場感ある広い会場講成で真剣に実施され、明るい雰囲気好評裡に終了しました。



“LEAD THE WAY” 率先しよう

ロータリー情報委員会 委員 伴 敏彦 (舞鶴東RC)

2006～2007年度 国際ロータリーのテーマです。そして平井義久ガバナーは第2650地区のテーマを『絆』——奉仕の感動を分かち合おう。——とされました。

『絆』——夫婦の絆、家族の絆、隣近所の絆、友達の絆、会社内での絆……ロータリアン同士の絆をより強くし、奉仕の感動を分かち合うクラブ運営、活動が出来れば、毎週の例会も楽しい活気のあるものになり会員増強にも繋がるのではないかと！

昨今のマスコミを賑わしている事件、事故、児童虐待、息子が家族を殺す、放火殺人等々遣りきれない出来事が多すぎる。パチンコをするな、勉強しろ等々の一言よりも愛情ある一言を、また、もっと会話が出来なかったのか！

今、「家族」に何が起きているのか？家族をめぐるトラブルが数多く起こっている！何が問題なのか！——地域や親族の絆がなくなっている！

家庭は、共に生活し、互いに話し合っ、励まし合い、認め合い、喜びや悲しみ、苦しみを共有し合うところなのです。家族への“思いやり”や“心のゆとり”が消えてしまっている。家族の絆を取り戻し、強くするためには、どうすればよいので

しょう。

「会話」、「そんなことはない」「そんなのはダメよ」など途中で否定したり、批判せず話を「聴く」こと。「聴く」ことができれば、「話す」。主語を「私は」で初めて事実を具体的に。「ほめる」、ある子供に「あなたの良いところは？」と聞くと「わからない」との答え。「悪いところは？」と聞くとあれもこれもとたくさん答える。最近、きちんと子供を「ほめる」親が少なくなったからでしょう。

月曜日～土曜日 PM4：30娘の子-孫2人を迎えに行くのが私の日課の一つです。5歳と1歳半のジイジイ。5歳の健太が全身の声を張り上げて今日一日の出来事を家に帰る間報告してくれます。返事をしながらフットと我に返った時、20年前、娘と息子と私——「行ってきまーす」「何処行くん」「学校行くやん」「何しに行くん」「勉強に決まるとるやん」——高校を卒業まで毎日同じ朝の送り出しだった様子、私の顔を見てニヤーと笑って出て行った子供達、なぜか楽しい一日が来る様な気分の毎日でした。

一緒にいる時間——つながりの実感、安堵感が家族の絆を深める。これも絆かな！



「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご利用願います。以下資料のご紹介をいたします。

「出会い・友情・奉仕」

- ◎ 「第2世紀へのクラブ活性化の条件」 南園義一
2006 3p (D. 2650月信)
- ◎ 「ロータリーにおけるサービスの理念と職業活動の意義について」 菅生浩三
2006 9p (D. 2690 地区大会)
- ◎ 「クラブ運営について」 高士雅次 他
2005 5p (D. 2660 パネルディスカッション)
- ◎ 「奉仕の新世紀を迎えて」 塚原房樹 他
2006 12p (D. 2510 地区大会シンポジウム)
- ◎ 「クラブの奉仕活動について」 岡本貴夫
2006 6p (D. 2690 地区大会)
- ◎ 「ロータリーの夢を叶えるロータリー財団」 片岡暎子
2006 7p (D. 2510 地区大会)
- ◎ 「還ろう 米山梅吉の原点に」 内藤成雄 他
2006 4p (米山梅吉記念館館報 シンポジウム)
- ◎ 「CLPって何だ？」 三木靖
2006 3p (D. 2730 月信)
- ◎ 「四大奉仕を尊重したCLPに基づいたクラブ細則例」 田中毅 2006 5p (D. 2680 月信)
- ◎ 「ロータリアンのマインド調査とその課題」 小船井修一
2006 5p (D. 2500 月信)
- ◎ 「変わり行くロータリー」 佐藤邦夫 他
2006 12p (D. 2830 IMシンポジウム)
- ◎ 「霧多布のエゾヤマザクラ」 道下 俊一
2006 7p (D2500 月信)
【上記申込先：ロータリー文庫(コピー)】

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階
TEL (03)3433-6456 FAX(03)3459-7506
http://www.rotary-bunko.gr.jp
開館=10:00~17:00 休館=土・日・祝祭日

識字向上へのご理解とご支援のお願い

国際ロータリー第2650地区

ガバナー 平井 義久

RI 識字向上タスクホース

エリアコーディネーター 藤川 享胤

ゾーンコーディネーター 中村 幸吉

RIは、非識字こそ貧困をはじめとする諸悪の根源であると考え、1997年のRI理事会で7月（現在は3月）を識字率向上月間に指定しました。その後、識字問題は2005年までのRI強調事項となり、ピチャイ・ラタクルRI元会長、ジョナサン・マジェアビ直前会長そしてグレン・エステス会長も識字率向上のために世界120万のロータリアンに絶大な支援を要請されました。今や識字率向上運動はポリオ・プラス計画の後を継ぐ、RIの重要なプログラムになっております。

現在の文明社会において、文字文化から隔絶されて生活することは社会から置き去りにされることを意味します。非識字者は正当な職に就けず、それに帰因する貧困は、更にその子供たちの就学の機会を奪い、途上国において非識字と貧困は悲惨な悪循環を生み出しています。

世界には約10億の非識字者がいます。私たちに想像できない数字ではありますが、これは15歳以上の大人の4分の1に当たります。その4分の3はアジア人であるといわれ、また非識字者の3分の2は女性であります。

一方、世界で1億3千万の就学年齢児が学校に行けません。ユネスコや我々の努力にも拘わらず、この数があまり減少していません。途上国の子供が年々増え続けているので、学校に行けない子供が増加する恐れもあります。また、折角入学した子供も3分の1は小学校を卒業していません。このままでは南北間の貧富の差は益々広がり、地球規模の社会不安は一層増大するでしょう。ニューヨークでの同時多発テロの原因も、結局は貧富の差に根ざしていると言われる。これは我々に強い危機感を与えます。

先進国ではメディア・イリテカシー（メディア音痴）という言葉さえ聞かれます。「メディア音痴」とはインターネットを始めとする情報技術に乗り遅れることを意味し、これではメデ

ィアを使いこなす人に決定的な差をつけられることを覚悟しなければなりません。こうした情報化社会の時代に文字さえ知らないということは、何を意味するのでしょうか？このままでは世界人口の5分の1に過ぎない先進国の情報技術が益々進歩し、南北国家間の文明格差は増すばかりであります。このままでは、私たちは到底平穏な世界を次の世代に残すことはできないでしょう。

現在、世界の人口は60億に達しました。更に、年間約1億人即ち毎年メキシコの人口に匹敵する人口増加を続けています。このまま人口が増え続けてゆくならば、この地球の将来は暗いでしょう。しかも、人口増加の99%は途上国です。我々は、折角、予防接種で救った子供たちを飢え死にさせてはなりません。また、彼らに生きがいを持たせる教育と職業を与えなければなりません。

人口増加抑制の最大のポイントは母親たちの教育です。途上国の少女が中等教育を受けるだけで出生率が低下し、先進国並みになることが知られています。従って、教育、特に女性教育こそ我々宇宙船地球号が生き延びてゆく上での最も効果的な手段である、と言えるでしょう。

これが、私たちの進めようとしている識字率向上運動の今日的意義であり、正に「情けは人の為ならず」であります。確かに、私たちは長引く不況の最中にいます。しかし、今直ぐに識字率向上運動を推進しなければ、手遅れになるでしょう。RIの識字委員会は各途上国の委員からの確実な情報に基づき、地区レベルあるいはクラブレベルでご協力いただく最も有意義な援助プロジェクトを決定し、いずれそのリストを提供させて頂きます。諸般、厳しい状況下にあります。何卒、識字プロジェクトの重要性をご理解賜り、RIの識字率向上運動にご協力下さいますよう、お願い申し上げます。



クラブ会長と幹事の皆さまへ

クラブ役員のための情報資料

クラブ・地区担当職員（日本事務局奉仕室職員）は、クラブを広く支援するために、情報、手段、コミュニケーション資源を提供し、RI本部事務局との連絡担当者としての役割を務めます。ロータリーに関するご質問にお答えし、クラブ選挙、定款規定、クラブ運営、RI理事会の方針といった内容について助言いたします。

クラブの管理・運営に役立つウェブ資料をご覧になったことがありますか。

- ・クラブ会長と幹事のための参考資料が、下記ウェブサイトに掲載されています。

http://www.rotary.org/languages/japanese/newsroom/downloadcenter/club_pres_sec_resources_japdf

- ・「会員アクセスページ」を利用して、クラブの会員記録を変更したり、ロータリー財団の各種報告書を閲覧したり、クラブの人頭分担金をオンラインで支払い、次期クラブ役員を報告したりする方法をご存知ですか。詳細な説明と役立つヒントは、下記のウェブサイトをご参照下さい。

<https://riweb.rotaryintl.org/ja/faq.asp>

- ・視聴覚資料、クラブ用ソフトウェア、書式、用紙類を含めたクラブ管理運営のための重要な出版物はすべて、ウェブの<http://shop.rotary.org/>（英語）から探すことができます。
- ・「クラブ会長のための月間照合表」は、クラブ会長とクラブ会長エレクトのために作成された資料であり、RIとロータリー財団プログラムの重要な期日を含め、クラブや地区の運営に関する重要事項が月ごとに記載された年間予定表です。下記のウ

ェサイトに掲載されています。

http://www.rotary.org/languages/japanese/newsroom/downloadcenter/pres_checklist_ja.pdf

- ・クラブ・リーダーシップ・プランは、クラブを活性化する新たな素晴らしい方法です。これは、効果的なロータリー・クラブのベストプラクティス（最善の実践方法）に基づいています。クラブ・リーダーシップ・プランを説明した資料が、下記ウェブサイトに掲載されています。

<http://www.rotary.org/languages/japanese/support/clubplan.html>

RI日本事務局職員は、今後皆さまのお手伝いをし、クラブの奉仕活動を支援させていただけることを楽しみにしております。RI事務局から援助が必要な場合は、当奉仕室あるいは下記担当部署までお気軽にご連絡ください。

国際ロータリー日本事務局
奉仕室長 大木 光男

〒115-0045

東京都北区赤羽2-51-3、NS3ビル1階

奉仕室：電話 03-3903-3161

財団室：電話 03-3903-3192

経理室：電話 03-3903-3183

資料室：電話 03-3903-3194

ファックス番号は各室共通：03-3903-3781

国際ロータリー日本事務局

郵便宛先：〒115-0045 東京都北区赤羽2-51-3 NS3ビル1階

業務時間：月～金 9：00～17：00

事務局長：大島 四郎

奉仕室

電話：03-3903-3161

FAX：03-3903-3781

室長：大木 光男 Mitsuo.Oki@rotary.org
白杵 大輔 Daisuke.Usuki@rotary.org
長野 衣里 Eri.Nagano@rotary.org

- 新クラブの加盟（ロータリー・クラブ、ローターアクト、インターアクト、ロータリー地域社会共同隊）
- クラブの名称・所在地の変更の申請
- 会員アクセスページに関する問い合わせ
- クラブ創立記念の認証（例、50周年、75周年）
- ロータリー奉仕50周年を達成したロータリアンの表彰状（要請により作成）
- 手続きおよび定款規定についての地区ガバナー、クラブおよびロータリアンに対する助言
- 世界本部との連絡にあたり地区ガバナー、クラブおよびロータリアンを支援
- クラブの最近の記録および史料記録を維持

財団室

電話：03-3903-3192

FAX：03-3903-3781

室長：片岡 暎子 Teruko.Kataoka@rotary.org
清水 優季 Yuki.Shimizu@rotary.org
山本 律子 Ritsuko.Yamamoto@rotary.org

- 寄付の認証
- 各種申請書（奨学金、マッチング・グラント、個人向け補助金など）の受理
- 税制上の優遇措置の手続
- 地区補助金の申込、最終報告の受理
- 財団プログラムの説明
- 財団資料（セミナー・ハンドブック）の作成

経理室

電話：03-3903-3183

FAX：03-3903-3781

室長：斎藤 愛子 Aiko.Saito@rotary.org
花村 俊樹 Toshiaki.Hanamura@rotary.org
藤野 公三子 Kumiko.Fujino@rotary.org

- 国際ロータリーに対する人頭分担金の徴収とその他の支払い
- クラブおよび地区からの次の事項に関する問い合わせについての回答
半期報告書
クラブ送金および未払い金
加盟最終処分の後で支払いが行われたことによる復帰
- ロータリー財団寄付の領収書の発行

資料室

電話：03-3903-3194

FAX：03-3903-3781

室長：コーディネーター
森 智洋 Tomohiro.Mori@rotary.org
縄田 怜 Satoru.Nawata@rotary.org

- 国際ロータリーの文献、ビデオのご注文ならびに問い合わせ

財津 晃先生を偲んで

前ガバナー補佐 平山 正 (長浜RC)



長浜ロータリークラブの象徴的な存在であったパストガバナー財津晃氏(85才)が去る7月5日、剣道の練習中に逝去されました。長年通われていた道場での練習中、少し休憩を、と休まれたまま帰らぬ人となってしまわれたそうです。

7月3日(月)今期初例会には、新会長、幹事へパストガバナーとして恒例の激励スピーチを、元気にユーモアを交えて話されていたお姿が目に見え、余りに突然の事で、今なお精神的支柱を失った喪失感とともに惜別の情ははかりしれません。

僭越な申し上げかたかも知れませんが、道場からの旅立ち、剣道教士七段の称号を持たれ、剣道を一生の鍛錬の場として日々励んでこられた先生に相応しい最期の場所ではなかったかと愚感いたしています。

先生は整形外科医としての博学と洞察力はもとより、45才の若さで長浜赤十字病院院長に就任以来26年間、今日の病院の基礎を築かれ、地域医療の発展に貢献され、その功績により数々の表彰を受けられ、1984年病院事業功労 厚生大臣表彰、1985年藍綬褒章、1992年 秋の叙勲で『勲三等瑞宝章』を受章しております。

また、新聞コラムに数多く投稿され、多くの著作を上梓して

こられました。1976年には、それまでに掲載されたエッセイをまとめた「魚眼抄」を裏千家家元 千 玄室氏に序文と題字を戴いて発行され、その5年後には六十編を「魚眼抄(二)」として発行され、その後も旺盛な筆力をもって、「青春賦」「井蛙録」「独断偏見・病院長論」「病院小史」「海外旅行日誌」「悦子抄」と続けて発行されています。私共も都度サイン入りで頂戴しクラブでも大切に保存させて戴いています。

先生のもう一つの趣味に、熟年期に始められたマラソンがありました。毎日ジョギングに汗を流しておられ、健康維持にはこれが一番良いと医師の立場からもよく話しておられ、ハワイマラソンにも何度も挑戦され、全国健康マラソン会会長も務められました。

先生とロータリーでの厚誼は、1979～80年、先生がクラブ会長の時に幹事、1983～84年、地区ガバナーの時には地区幹事として、いつも先生の側で指導を受けてきました。04～05年、神谷ガバナーの時に私がガバナー補佐を無事務められたのも先生の先輩としての助言と激励のおかげと感謝いたしております。

また ここ数年は滋賀県地区内よりの次期ガバナーノミニー選出を心より願って連日人選に粉骨尽力され、本年ようやく山崎パストガバナーのお力添えにより次のガバナー候補を選出でき、本当に安堵して喜んでおられた事を目の当たりにして来ました。

半世紀以上にわたる交友の中で、時には兄のように又あるときには厳父の如くご指導を戴いたことを心の糧として、先生の遺志を少しでも育んでまいりたいと思います。

ご冥福をお祈りいたします。

台掌

逝去会員

謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。



宇野 浩光 氏
(武生RC)
平成18年7月6日
享年50歳



中田 幹雄 氏
(京都山城RC)
平成18年7月9日
享年76歳



錦織 米市 氏
(峰山RC)
平成18年7月12日
享年94歳



金澤 三四造 氏
(京都山科RC)
平成18年7月22日
享年94歳



川村 明 氏
(長浜RC)
平成18年7月25日
享年71歳



京都西



京都西



宮津



京都山城



京都東



京都東



大和郡山



福知山



福知山



福知山



東近江



亀岡



亀岡



亀岡



京都北



京都北



京都北



京都山城



奈良



奈良



奈良



京都山科



京都山科



京都山科



東近江



東近江



福井東



福井東



亀岡



五條



五條



五條



京都乙訓



京都乙訓



京都乙訓

NEWS



奈良新聞
2006年8月10日



福井新聞
2006年8月1日



福井新聞
2006年8月8日

2006~2007年度
国際ロータリー第2650地区 第3組
INTERCITY MEETING

速報

テーマ:「ロータリーの絆」—ロータリーの本質を問う—

基調講演「ロータリーとは」 平井ガバナー 千 玄 室
シンポジウム パネルディスカッション



2006年8月19日(土)
京都ホテルオークラに於いて
インターシティミーティングが
開催されました。
追って詳細は掲載してまいります、
今月号では、IMの様子を
いち早く写真でお届けします。







Jenny Horton ジェニー・ホートン(ロータリアン/元青少年交換留学生)
「夢が実現するとは私の人生そのものです。
そしてすべては青少年交換に始まり、ロータリーに負うものです。
ロータリーはこの平凡な一女性に
奉仕という非凡な機会を与えてくれました。」



星の数ほど人はいても、絆で結ばれる人々はほんの一握りに過ぎません。地球という一つの星の上でめぐりあい、触れ合い、心が通いあうことは人生の中で大きな喜びです。家族の絆、友人との絆、地域社会の人々との絆、世界の人々との絆、2650地区ではこの絆の精神を大切に共に力を合わせ、理想的な奉仕の実現をめざしたいと願っています。

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

ガバナー月信
Vol.3

CONTENTS

ガバナーメッセージ	1
新世代育成	3
青少年交換委員会だより	7
クラブ活動報告	9
委員会だより	10
識字率向上運動	11
国際ロータリー日本事務局だより	12
訃報	13
2006年7月会員数の増減および出席率	14
公式訪問	15
インターシティミーティング速報	17

<http://www.rid2650.gr.jp>



国際ロータリー第2650地区 2006～2007年度

ガバナー事務所 〒604-8186 京都市中京区烏丸御池南東角アーバネックス御池ビル西館3階 電話(075)229-2650 Fax(075)229-2651 E-mail:gov06-07@rid2650.gr.jp
GOVERNOR OFFICE % URBANEX-OIKE Bldg, WEST 3F KARASUMA OIKE MINAMI-HIGASHI-KADO NAKAGYO-KU KYOTO JAPAN 604-8186
Phone:+81-75-229-2650 Fax:+81-75-229-2651 E-mail:gov06-07@rid2650.gr.jp

表紙制作にご協力いただきました

絆の主旨をご理解いただき、ご出演いただきました[特定非営利活動法人 京都インターナショナルスクール]の皆様をはじめ、多くのご協力で厚く御礼申し上げます。